

若者問題論Ⅱ

科目ナンバリング SOC-326
選択 2単位

井上 慧真

1. 授業の概要(ねらい)

現在の自分自身と深くつながっている時期でありながら、日常のなかで改めて考える機会に乏しい思春期・青年期について学ぶ中で、自分自身、そして他者についてより深く理解することを目標とする。

2. 授業の到達目標

思春期・青年期の諸問題のうち、履修者各自の関心のあるテーマを考える視点を身につける。
履修者が講義内容を理解し、小課題や期末レポートに取り組むことができる。

3. 成績評価の方法および基準

各講の小課題(40%)期末レポート(60%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

大山泰宏 思春期・青年期の心理臨床 放送大学出版会

宮本みち子 アンダークラス化する若者たち―生活保障をどう立て直すか 明石書店、2021

苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗編 『＜教育＞の社会学 新版―常識の見方・問い直し方』 有斐閣、2010年

5. 準備学修の内容

シラバスおよび授業中に提示する参考書等を読み、授業内容についての理解を深めること。

6. その他履修上の注意事項

小テストは期限までに受験すること(期限を過ぎてから提出されたものは成績評価の対象となりません)。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 青年期の心の変化と社会
- 【第3回】 青年期の友人関係と孤独
- 【第4回】 青年期に抱える困難の多様性―発達障がい概念の検討から
- 【第5回】 学校教育と青年期
- 【第6回】 青年期における異文化への関心
- 【第7回】 青年期と非行
- 【第8回】 青年期における不登校・ひきこもり
- 【第9回】 思春期・青年期と身体
- 【第10回】 思春期・青年期の困難とその支援―民間団体の活動を中心に
- 【第11回】 思春期・青年期の困難とその支援―地域政策を中心に
- 【第12回】 思春期・青年期とメディア
- 【第13回】 成人期への移行―その実相と困難
- 【第14回】 思春期・青年期・ポスト青年期―家族関係を中心に
- 【第15回】 ライフサイクルと世代性―思春期・青年期における経験が人生に持つ意味